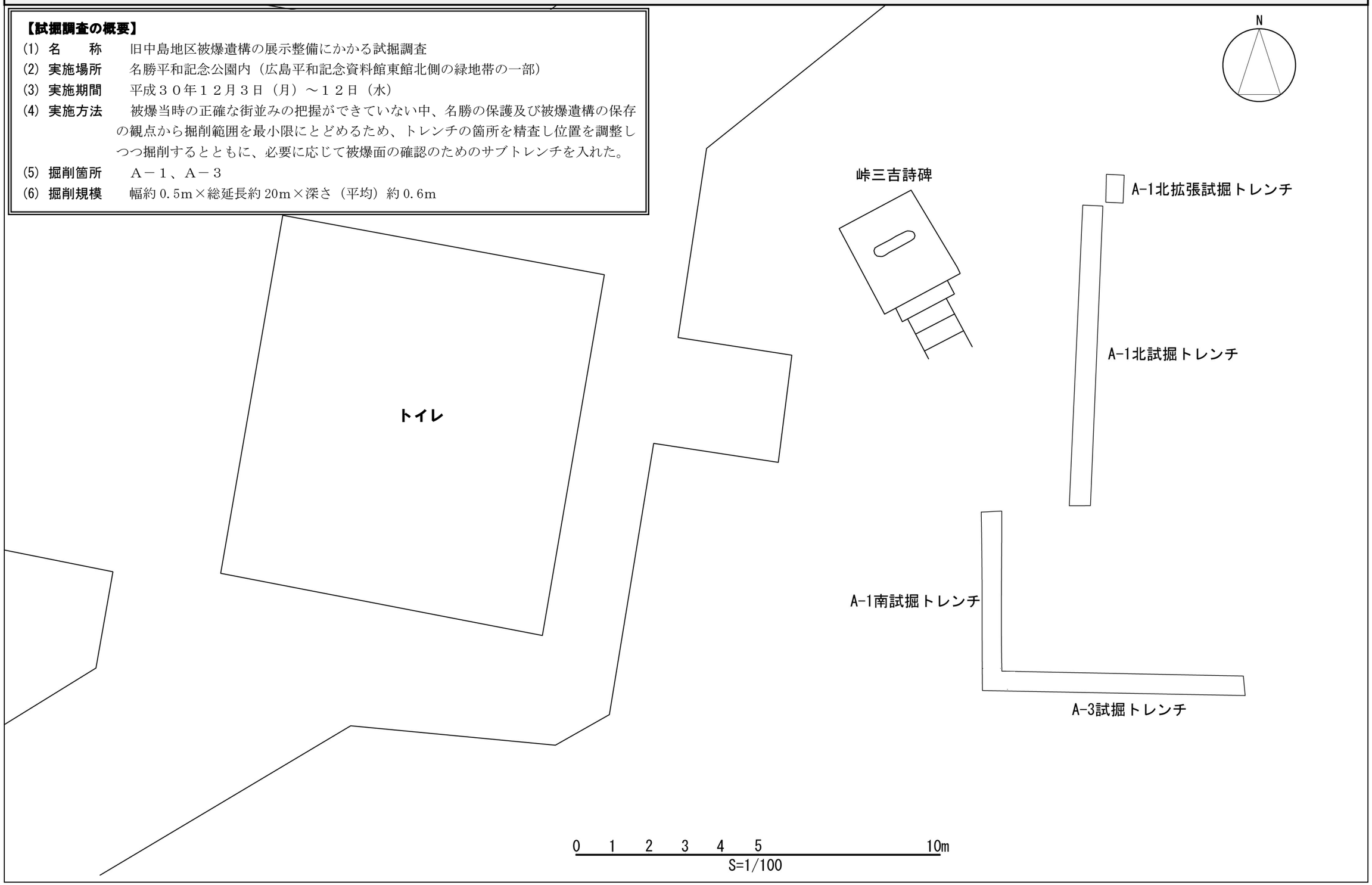
資料１

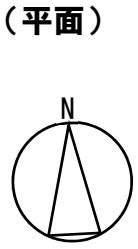
旧中島地区被爆遺構の展示整備にかかる試掘調査の実施状況等

【試掘調査の概要】

(1) 名　　称　　旧中島地区被爆遺構の展示整備にかかる試掘調査
(2) 実施場所　　名勝平和記念公園内（広島平和記念資料館東館北側の緑地帯の一部）
(3) 実施期間　　平成３０年１２月３日（月）～１２日（水）
(4) 実施方法　　被爆当時の正確な街並みの把握ができていない中、名勝の保護及び被爆遺構の保存の観点から掘削範囲を最小限にとどめるため、トレンチの箇所を精査し位置を調整しつつ掘削するとともに、必要に応じて被爆面の確認のためのサブトレンチを入れた。
(5) 掘削箇所　　Ａ－１、Ａ－３
(6) 掘削規模　　幅約 0.5m×総延長約 20m×深さ（平均）約 0.6m



（平面）



【試掘調査の成果】

試掘調査により確認できたことは次のとおりである。

◎　被爆遺構が地表から平均 60cm 程度の深さに残存していること。
検出物：天神町筋の一部と思われる側溝やアスファルト、建物の構造物らしき石、炭化材（焼けた木材）など

◎　試掘調査箇所の辺りが天神町筋沿いの住居があった場所であると推測されること。

◎　地表から平均 30cm 程度の深さまでの地盤が極めて固いこと。

◎　樹木の根が多く検出されたが、根は比較的浅い位置に伸びており、根による遺構の毀損は見られなかったこと。

◎　試掘調査に先立ち、民間事業者（ジオ・サーチ㈱）の協力のもと実施したマイクロ波による試験的な調査の結果、試掘調査箇所の下に埋設管（地表からの深さ 0.7m～1.4m程度、埋設時期は不明）があることが分かった。試掘調査を通して、この埋設管による被爆遺構への影響の有無も併せて確認したところ、２か所において被爆遺構は毀損していた。

Ａ－２について

次の理由により、実施を見送った。

◎　Ａ－３のトレンチの東端から検出されたアスファルトの位置をもとに、Ａ－２のトレンチの位置を精査したところ、候補となる箇所には樹木等があり、掘削するには樹木等の除去（伐採又は移植）が必要となるため。

◎　Ａ－２の試掘調査の目的であった天神町筋の幅員の確認については、同時期に実施された平和記念公園レストハウスの試掘調査において５ｍ程度であることが確認されたため。

▲Ａ－２候補箇所
（南側から撮影）

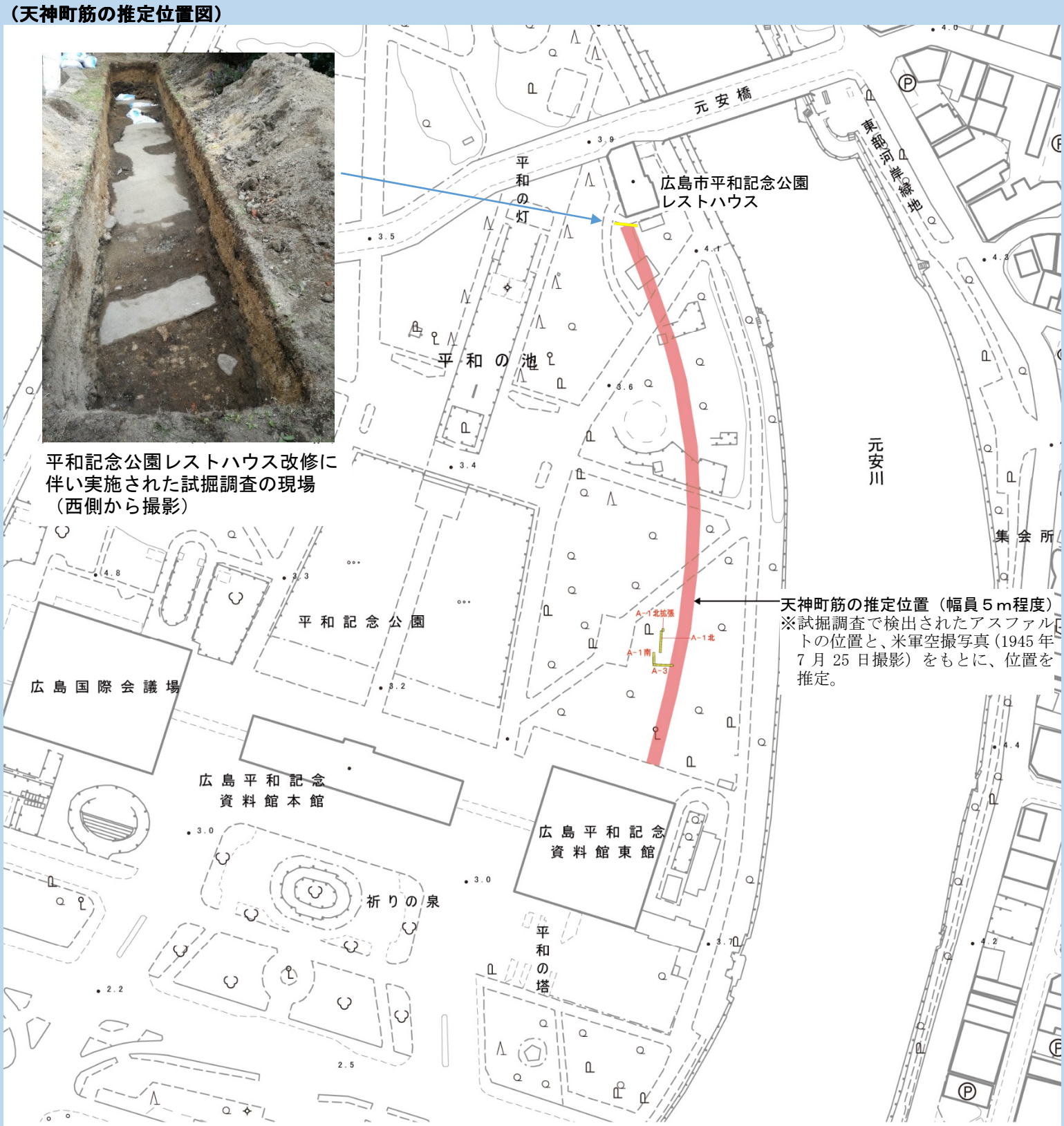
【参考】

平和記念公園レストハウス改修工事に伴い実施された試掘調査において、天神町筋の両端が検出され、その幅員が５ｍ程度であることが明らかになった。

下の図は、旧中島地区被爆遺構の展示整備にかかる試掘調査の結果等と合わせて、旧天神町筋のおよその位置を推定したものである。

（天神町筋の推定位置図）

平和記念公園レストハウス改修に伴い実施された試掘調査の現場（西側から撮影）



凡例

記念碑　　広葉樹林　　針葉樹林

※この地図は、1/2,500の地形図（広島市）をもとに作成したものである。